

# 和歌山県立はまゆう支援学校・南紀支援学校 合同学校運営協議会

令和4年度 第2回 【11月10日】9:30～11:00

出席者：委員15名 傍聴者 10名

## 会議の流れ

- ① 開会の挨拶 県立南紀支援学校石本校長より
- ② 出席者自己紹介
- ③ 配付資料等の確認
- ④ 令和5年度南紀はまゆう支援学校（仮称）の学校教育目標等について（説明、協議）
- ⑤ 令和5年度南紀はまゆう支援学校（仮称）の学部運営等について（説明、協議）
- ⑥ 今後の学校運営協議会の進め方について（説明、協議）
- ⑦ 意見交換
- ⑧ 令和4年度第3回学校運営協議会について
- ⑨ その他
- ⑩ 閉会の挨拶 県立はまゆう支援学校小原校長より

- 学校運営協議会終了後、南紀支援学校新校舎見学を実施

## 概要

### 【議論した主な内容】

- ④ 県立はまゆう支援学校 小原校長より、南紀はまゆう支援学校学校（仮称）統合校における基本コンセプトや教育目標等について説明を行った。  
〈主な内容は次のとおり〉

## 統合校の基本コンセプト

みなべ、田辺・西牟婁地域の特別支援教育を牽引する拠点校として両校を統合し、障害のある子供たち一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自立・社会参加するために必要な力を育む教育の充実を図ります。

### ○ 統合校の内容・特色

重度・重複障害のある児童生徒等、  
多様な教育的ニーズに対応する教育

安心・安全な学校生活を支える  
学習環境の整備

みなべ、田辺・西牟婁地域における特別支援教育の  
センター的機能

※センター的機能とは  
学校教育法の改正により、特別支援学校には、教育上の高い専門性を生かしながら地域の小・中学校等を積極的に支援していくなど、中核的な役割を担うことが規定されています。

視覚障害・聴覚障害のある幼児児童生徒への  
相談支援の充実

一般就労の促進に向けた  
職業教育の充実

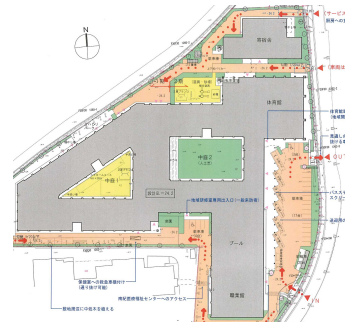
○ 学校教育目標	いきいきと 共にいきる 心ゆたかに たくましく
○ めざす子ども像	いきいきと自分らしく生きる子ども
○ つけたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を理解する</li> <li>・自ら活動する</li> <li>・みんなで協力する</li> <li>・自ら役割をはたす</li> </ul>

学校運営組織	
小学部	・知的障害教育部門・肢体不自由障害教育部門・聴覚障害教育部門
中学部	・知的障害教育部門・肢体不自由障害教育部門・聴覚障害教育部門
高等部	・知的障害教育部門・肢体不自由障害教育部門・聴覚障害教育部門

**正面イメージ**



**配置計画**



⑤ 県立はまゆう支援学校 世儀教頭より、令和5年度南紀はまゆう支援学校（仮称）の学部運営等について説明を行った。  
 〈主な内容は次のとおり〉

	めざす子ども像	つけたい力
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健やかな心と身体をめざす子</li> <li>・興味や関心を広げチャレンジする子</li> <li>・人とのやりとりを大切にする子</li> <li>・自分の役割を楽しむ子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心感を持ち、思いきり活動する力</li> <li>・人や物に関わることを楽しむ力</li> <li>・気持ちを表す力</li> <li>・自分の役割を知り、続ける力</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な心と身体を養い安全な生活を送る人</li> <li>・心豊かに表現する人</li> <li>・自分と他者を大切にする人</li> <li>・自分の役割を担い、取り組む人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を整え健康な生活を送る力</li> <li>・主体的に人や物に関わる力</li> <li>・集団で育ち合う力</li> <li>・自ら役割を担い、やり通す力</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で安全な生活を送る人</li> <li>・よく考え判断し表現する人</li> <li>・なかまと共に社会で生きる人</li> <li>・はたらく喜びや楽しさを知り、主体的に活動する人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の生活を管理し、安全に配慮して生活する力</li> <li>・自ら気づき、考え、判断し、表現・行動する力</li> <li>・集団の中でよりよく関わろうとする力</li> <li>・自分の役割や目標・楽しみを見つけやり遂げる力</li> </ul>

各学部で大事にしているところ	
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人、集団での活動を大事にした学習活動の設定、展開</li> <li>・一人ひとりの教育課題に応じた学習内容を設定したわかる授業づくり</li> <li>・体験活動や学習活動をとおして「できた」「やった」を感じられる授業づくり</li> <li>・地域とのつながりを大事にした取組            （魚食体験、防災学習、学校間交流〔生馬小学校〕、居住地校交流、南紀はまゆう合同授業等）</li> </ul>

中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な大人や友達を支えに思春期の心と身体の変化を受け止め「健康な心と身体作り」「自己理解・自己決定する力」「集団で育ち合う力」「役割をやり通す力」</li> <li>・知的障害、肢体不自由障害、聴覚障害合同の取組 (音楽、遠足、フラワータウン等)</li> <li>・地域との関わりを大事にした取組 (学校間交流〔上富田中学校、大塔中学校〕、魚食体験、ゲストティーチャーを招聘した授業 等)</li> </ul>
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活を想定し、中・長期的な視野に立った学びの土台を育成することをねらいとしたコース制の導入</li> <li>・キャリア教育の視点も踏まえた生徒一人ひとりのねらいに応じた教育課程の編成</li> <li>・知的障害、肢体不自由障害、聴覚障害合同の取組 (総合的な探究の時間、キャリアガイダンス、美術 等)</li> <li>・地域とのつながり、関わりを大事にした取組 (学校間交流〔熊野高等学校〕、アルミ缶、ペットボトル等の回収活動、地域施設の清掃作業、販売活動、製品・作品の配付 等)</li> </ul>

⑥ 県立南紀支援学校 石本校長より、今後の学校運営協議会の進め方について、説明と協議を行った。

〈主な内容は次のとおり〉

- ・令和4年度、南紀支援学校学校運営協議会において、「医療」「福祉」「進路」「地域」の4つの分科会を設定し、学校運営協議会員に各分野での活動をお願いし、取組内容や活動について学校運営協議会で確認していく形での運営に取り組んでいる。
- ・4つの分野をリンクさせながら、医療分野では、児童生徒への医療的ケアにおいて、教員への助言や実地訓練を含む指導及び研修等をお願いしたり、福祉分野、進路分野では、ゲストティーチャーとして授業での指導や卒業後の進路開拓、ICT機器を使った作業展開に向けた助言、指導などお願いしている。
- ・令和5年度は、「医療」「福祉」「進路」「地域」「学校」の5つの分科会を設定し、学校運営協議会での取組を直接、児童生徒、教員に返していきながら、より充実した学校運営協議会の運営ができるよう検討を進めている。
- ・今後とも、委員の皆様には、学校の応援団としてご指導ご鞭撻をお願いしたい。

◇学校運営協議会委員より意見

- 「学校の困りごと」を共有することは大事であると思っている。子どもたちの将来や成長を考えたとき、どのようにしていきたいのかなど先生方の思いや願いを出していただき、その思いや願いを共有し役割分担のもと取り組んでいくことが、学校運営協議会のあるべき姿ではないかと考えると共に学校との関係性を意識して取り組んでいきたい。
- 学校や学校運営協議会委員との情報共有の場が、学校運営協議会だけでは時間が足りないと思うので、例えばグループチャット等ツールを活用して簡単な情報でいいので皆さんと共有できればと思う。ぜひ、ご検討をお願いしたい。
- 分科会形式について、学校運営協議会委員一人ひとりの専門性や得意分野を發揮して学校教育に協力、参加していくことと考える。その中で、それぞれの専門性や得意分野の窓をとおして見えてきた学校運営のあり方や校長先生が考える今後の学校の姿など、どこかで共有することが必要である。学校運営協議会委員としてそれぞれの立場から、助言、アドバイス、提案などをするためにも、日常的で負担のかからない程度の情報交換、情報共有は、必要であると考えます。
- 学校運営協議会の役割と目的というものをまず最初に決めること、明確にすることが大事であると考えます。はまゆう支援学校は、規模が大きく、育友会組織には5つの専門部があり、それぞれの分野で役割が重複しないように活動設定がされ

ている。普段、地域の中で各専門分野で活躍されている方々にこういった役割を担っていただくのかということを確認することで、どこまで関わっていただいいのか、何について意見を言えばいいのかがわかりやすくなると思う。意見というものは、「あつめる」「きく」＋「どう実現するか」というのが運営上大事であり、そのためにも、本協議会の役割、目的をはっきりさせていただければありがたい。

⑦ 意見交換

- 学校運営協議会委員となって初めて支援学校に通う子どもたちの様子をうかがうことができたが、子どもたちの普段の姿をほとんど見たことがないので、子どもたちの普段の姿を見たり感じられたりできる時間を作っていただけといううれしく思う。
- ある日、子どもが通学（自宅と寄宿舎の往復利用）で路線バスに乗っているとき、バス運賃支払いのことでトラブルになったことがある。子どもがまず最初にしたのは、携帯電話で母親に連絡取るということであつた。電話からは詳しい内容はわからなかつたが何かトラブルがあつたのはわかつたので対応することができた。咄嗟に連絡を取るといふ手段を考えつゐた、ひらめいたといふことは、今まで学校で学んできたことが力になっていると思つた。また、このトラブル後も、本人は、嫌がることなくそれ以降も路線バスを使つて登校を続けた。トラブルにあつても心折れずに毎日通いつける姿から、本人が強くなつたと感じている。学校教育目標にある「心ゆたかに たくましく」「いきいきと自分らしく生きる」といふ言葉が、子どもの成長した姿から当てはまっていると、今すぐ感じている。高等部卒業後、学校や家庭など守られた環境の中での生活から、社会に出て行くことに親として不安を感じているが、本人自身は、働くことにとても意欲的であり、様々なトラブルに対してもそのトラブルを跳ね返す力が、12年間の学びの中ですごくつゐてきたと思ふ。
- 知肢併置校として新しくできる学校に対する不安感が完全に払拭されたわけではない。はじまってみないとわからないことは沢山あると思ふ。私の子どもも小学部1年生からこの学校にお世話になつていて、最初は不安でいっぱいだったけれど、学校の先生はとても教育熱心で、子どものことだけではなく家族のことも含めて一緒になつて考えてくれながら、今までやつてきた。不安はいっぱい、言い出したらキリはないけれど、今の学校に任せてもいいのかなといふところもある。一つ一つの不安に対して、学校の先生や職員の方、保護者の方と一緒になつて解決していけるのではないかと思ふ。今までの先生方の教育熱心さを身近で見つてきているので、それを信じて、新しい学校にしていけたらと思ふ。

⑧ 令和4年度第3回学校運営協議会について

次回、第3回学校運営協議会は、令和5年2月頃を予定している。次回も、南紀支援学校はまゆう支援学校合同での学校運営協議会を行う予定である。